

オゾン層に影響のない 総合土壌消毒剤

クミアイ

ガスタード®

微粒剤



土を守る。

土壌病害虫から



⑤ 本剤を処理した圃場の深さ10cm位の土を広口ビンに半分入れ、同様に本剤を使用していない土壌を別の広口ビンに入れて、だいこん、レタス等、発芽の早い種子を播いて発芽の状態を見ます。発芽状態に差がなければ作物を植えることができます。発芽状態が悪い場合は再度、圃場のガス抜きをしてください。

⑤ 発芽テスト



① ガスタード散布

① 土壌を耕起、整地したのち散粒機、肥料散布器等の器具または手(手袋着用)で均一に散布してください。



④ 被覆除去 ・ガス抜き



④ 被覆後一定期間の後、ビニールの被覆を除去し、耕起によるガス抜きをください。ガス抜きは2~3日間隔で2回以上、必ず行ってください。

ガスタードの 上手な使い方 (本圃の場合)

それぞれのポイントを守って
使用してください。

② 混和

② ローターを用いて十分に混和してください。



③ 散水・被覆



③ 土壌が乾燥している場合は十分に灌水してください。水分が不足すると、効果不足や薬害の原因となります。土壌の湿り具合は軽く握って、形が崩れない程度が適正です。散水後、有効なガスが抜けないようにビニールで被覆もしくは鎮圧後散水してください。特に地温が25℃を超える時はガスが抜けやすいので確実に被覆してください。

自然に学び自然を守る



適用作物・病害虫・雑草・使用目的と使用方法

2021年6月現在の登録内容

作物名	適用病害虫・雑草名、使用目的	10a当り使用量	使用時期	使用方法
キャベツ	苗立枯病(リゾクトニア菌)、株腐病 パーティシリウム萎凋病、根こぶ病 ネコブセンチュウ	20~30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
	萎凋病、一年生雑草		定植21日前まで	
非結球メキャベツ	根こぶ病、尻腐病、根くびれ病、黄化病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20~30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
はくさい	パーティシリウム黒点病、根こぶ病、萎凋病 一年生雑草		10~20kg	
かぶ	ネグサレセンチュウ	10~20kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
だいこん	根こぶ病	30kg	は種14日前まで	
非結球あぶらな科葉菜類 (こまつな、しろな、チンゲンサイ、ひろしまな、みずな、なはな類を除く)	根こぶ病	30kg	は種14日前まで	※(1)
こまつな	萎凋病、根こぶ病、一年生雑草	20~30kg	は種10日前まで は種21日前まで	
な	デンサイシストセンチュウ	30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
ブロッコリー		20~30kg	は種又は 定植21日前まで	
カリフラワー		30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
チンゲンサイ	根こぶ病、一年生雑草	20kg	は種又は 定植14日前まで は種12日前まで は種35日前まで	
なばな類		200~400g/m ²		※(2)
ひろしまな	立枯病(ピシウム菌)、根こぶ病、一年生雑草	20kg	は種12日前まで は種35日前まで	
みずな		200~400g/m ²		※(2)
はつかだいこん	苗立枯病(ピシウム菌) 苗立枯病(リゾクトニア菌)	200~400g/m ²		
きゅうり	つる割病、半生萎凋病、白絹病 一年生雑草	20~30kg		※(1)
かぼちゃ	苗立枯病(リゾクトニア菌) フザリウム立枯病	20~30kg		
メロン	黒点根腐病、つる割病、半生萎凋病 黒変根腐症、白絹病、一年生雑草 紅色根腐病	30kg		※(2)
すいか	苗立枯病(リゾクトニア菌)	200~400g/m ²	は種又は 定植21日前まで	
にがうり	つる割病、白絹病、一年生雑草 つる割病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20~30kg		※(1)
トニマ	苗立枯病(リゾクトニア菌)	200~300g/m ²		
ニマ	青枯病	30~60kg		※(2)
トニマ	紅色根腐病	30kg		
なす	萎凋病、褐色根腐病、根腐萎凋病 半生萎凋病、白絹病、ネコブセンチュウ 一年生雑草	20~30kg		※(1)
ピーマン	苗立枯病(リゾクトニア菌) 青枯病	30kg		
ばれいしょ	苗立枯病(リゾクトニア菌)、半生萎凋病 萎凋病、青枯病、白絹病、一年生雑草 そうか病、粉状そうか病、黒あざ病	20~30kg	植付21日前まで	※(1)
とうがらし類	苗立枯病(リゾクトニア菌)、疫病、青枯病	30kg	定植21日前まで	
ねぎ	黒腐菌核病 紅色根腐病、ネギハモグリカエ 白絹病、小菌核腐敗病、萎凋病、根腐萎凋病 ネコブセンチュウ	30~60kg 30kg 20~30kg	は種又は 定植14日前まで	※(1)
わけぎ	苗立枯病(リゾクトニア菌)、一年生雑草	20~30kg		
たまねぎ	黒腐菌核病 紅色根腐病 乾腐病、白絹病、ネコブセンチュウ 一年生雑草	30~60kg 30kg 20~30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
葉たまねぎ(苗床)	苗立枯病 黒穂病、一年生雑草	20~40kg 20~30kg	植付前 秋期(翌春は種)	
にんにく	黒穂病、一年生雑草	20kg	は種14日前まで	※(3)
らっきょう	紅色根腐病、白絹病、イモグサレセンチュウ 一年生雑草	10~20kg		
にら	根腐病、乾腐病、ネコブセンチュウ 一年生雑草	30kg	植付21日前まで	※(1)
にんじん	乾腐病、紅色根腐病、白絹病 一年生雑草	30~60kg		
パセリ	萎凋病、根腐病、しみ腐病、乾腐病、白絹病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20~30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
セルリー	苗立枯病(リゾクトニア菌)、疫病、萎凋病 一年生雑草	30kg		
しゅんぎく	萎凋病、一年生雑草	20kg	は種21日前まで	※(1)
あしたば	苗立枯病(リゾクトニア菌)、一年生雑草	30kg	は種10日前まで	

作物名	適用病害虫・雑草名、使用目的	10a当り使用量	使用時期	使用方法
こぼろ	萎凋病	20~30kg	は種28日前まで	※(1)
	黒あざ病、一年生雑草	30kg	は種21日前まで	
もりあざみ	半生萎凋病	20~30kg	定植21日前まで	※(1)
つるむらさき	ネコブセンチュウ、一年生雑草	30kg	定植30日前まで	
しろは	ネグサレセンチュウ			※(1)
レタス	すそ枯病、白絹病、一年生雑草	20~30kg	は種又は 定植14日前まで	
非結球レタス	根腐病	30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
食用ぎく	萎凋病、半生萎凋病、白絹病 センチュウ類(ハガレセンチュウを除く) 一年生雑草	30kg		
ふ	青枯病	20~30kg		※(1)
みづ	半生萎凋病、白絹病、一年生雑草	20kg		
豆類(未成熟*)	立枯病、一年生雑草	30kg	は種21日前まで	※(1)
ざやいんげん	苗立枯病(リゾクトニア菌)、葉腐病、白絹病 一年生雑草	20~30kg		
えだまめ	苗立枯病(リゾクトニア菌)、葉腐病、白絹病 一年生雑草	20~30kg	は種又は 定植21日前まで は種21日前又は 定植45日前まで	※(1)
未成熟そらまめ	えそモザイク病	30kg		
ざやえんどう	苗立枯病(リゾクトニア菌)、茎腐病 一年生雑草	20~30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
美えんどう	紫紋羽病、つる割病、白絹病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	30kg	植付21日前まで	
かんしょ	白絹病、乾腐病 根腐病、一年生雑草	20~30kg 20~60kg	定植21日前まで	※(1)
こんにゃく	乾腐病、一年生雑草 ネグサレセンチュウ	20~30kg		
さといも(葉柄)	根茎腐敗病	30~60kg	定植21日前まで	※(1)
しょうが	根茎腐敗病	20~30kg		
菜しょうが	立枯病、一年生雑草	30kg	定植42日前まで	※(1)
みょうが(花梗)	萎凋病、萎凋病、炭疽病、芽枯病、一年生雑草	20~30kg	仮植又は 定植21日前まで	
みょうが(茎葉)	青枯病、疫病	30kg	は種10日前まで	※(1)
いちご	立枯病、萎凋病、株腐病、根腐病 ホウレンソウカガコナダニ、一年生雑草	20~30kg	植付21日前まで	
ほうれんそう	根腐病、褐色根腐病、一年生雑草	30kg	は種又は 定植14日前まで は種42日前まで	※(1)
やまのいも	青枯病、一年生雑草	200~400g/m ²	秋期(翌春は種)	
しそ	一年生雑草	10~20kg	秋期(翌春は種)	※(4)
チャービル	黒根病、苗立枯病	20~30kg		
てんざい	角斑病、野火病、センチュウ類 立枯病、黒根病、疫病、一年生雑草	5~10kg	春期(植付前)	※(4)
たばこ	疫病、センチュウ類	20~30kg		
花き類・観葉植物	苗立枯病(リゾクトニア菌)、株腐病 球根腐敗病、首腐病、半生萎凋病、萎凋病 萎凋病、白絹病、立枯病、根頭かんしゅ病 ネコブセンチュウ	30kg 20~60kg	植付前	※(1)
せんりょう	立枯病、一年生雑草	20~30kg	は種又は植付前	
つつじ類	センチュウ類、一年生雑草	20~30kg		※(1)
カーネーション	萎凋細菌病 センチュウ類(ハガレセンチュウを除く)	30~40kg	植付前	
き	苗腐病 萎凋病	20~30kg		※(1)
ストック	根黒斑病 萎凋細菌病 紅色根腐病	20~30kg	植付前	
ぼたん・しゃくやく	萎凋細菌病 根腐病	20~30kg	は種又は植付前	※(1)
スターチス	根腐病	50~100g/m ²	植付前	
グロリオサ	萎凋細菌病 根腐病	400~600g	夏期~秋期	※(5)
スイートピー	軟腐病	100g/m ²		
さくらそう	根腐病	50~100g/m ²		※(1)
トルコギキョウ	根腐病	目土用土1m ² 当り 100~200g	雑草発生前	
パンジー	萎凋病	30kg	は種又は 定植21日前まで	※(1)
アイスランドポピー	根腐病	100g/m ²		
りんご	紫紋羽病、白紋羽病	50~100g/m ² 1株当り(4m ²) 400~600g	夏期~秋期	※(5)
な	白紋羽病	100g/m ²		
ぶどう	白紋羽病	50~100g/m ²		※(1)
芝	一年生雑草	目土用土1m ² 当り 100~200g	雑草発生前	
樹木類	定植は場の南根腐病菌の密度低減	30kg	は種又は 定植前	※(5)

*豆類(未成熟、ただし、えだまめ、美えんどう、ざやえんどう、ざやいんげん、未成熟そらまめを除く)

※本剤及びダズメットを含む農薬の総使用回数：1回

■使用方法 ※(1)本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和してください。 ※(2)土壌に本剤の所定量を加え十分混和してください。 ※(3)本剤の所定量を均一に散布して浅く混和してください。 ※(4)本剤の所定量を畦面に散布して土壌と十分混和してください。 ※(5)被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和してください。

■使用上の注意

- 本剤を処理する前に耕起整地してください。
- 本剤は土壌中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にばらつきが出るので、以下の点に十分留意してください。
 - ①地温が10℃以下のときには使用しないでください。
 - ②砂質土壌や乾燥した土壌で使用する場合は、ていねいに混和した後灌水して適度の水分を与えてから被覆してください。
 - ③次の場合はガスの拡散が遅いので被覆期間を適宜延長してください。
 - ア.重粘土質の土壌の場合
 - イ.降雨などにより土壌水分が多い場合
 - ウ.地温が低い(15℃以下)場合
- センチュウが多発する条件、或いはマト、なすではセンチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用してください。
- ガス抜きが不十分であると葉害が生じるおそれがあるので、少なくとも2回は耕起によるガス抜きを実施してください。なお、ガス抜きが不十分な場合は特にていねいに行ってください。
- 本剤を全面に処理する場合、深さ15~25cmに土壌と十分に混和してください。特に、やまのいもに使用する場合、深さ50~60cmに土壌と十分に混和してください。混和後ビニール等で被覆または鎮圧散水してガスの蒸散を防いでください。7~14日後被覆を除去して、ガス抜きを行ってください。
- 本剤を苗立枯病または芝の目土用土に処理する場合、本剤を十分混和後ビニール等で被覆し、7~14日後被覆を除去して、ガス抜きを行ってください。
- 本剤が作物に直接ふれると葉害を生じるので、周辺に作物がある場合にはかからないように十分間隔をおいて薬剤を処理してください。
- 温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、葉害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- りんご、桑、なし及びぶどうに使用する場合は、被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ25~40cm(りんごの場合は深さ40cm)に土壌と均一に混和してください。本剤処理20日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植付してください。また、りんご、なし及びぶどうでは、植え付けた年は果実を収穫しないでください。
- 南根腐病菌の密度低減のため樹木類に使用する場合は、以下の点に注意してください。
 - ①行政機関等(県、市町村)から南根腐病の発生地域として指定された防除を必要とする場所での使用に限ります。また、安全管理及び使用方法については、沖縄県の安全管理に係る指導内容を遵守し、人畜等への危険防止に十分配慮してください。
 - ②被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ45cmに土壌と均一に混和し、ガスバリア性フィルムで被覆してください。処理30日後に被覆を除去して耕起し、植え付けてください。
- こぼろに使用する場合は生育抑制、枝根等の葉害を生じるおそれがあるので、処理または定植までの期間を十分とり、ガス抜きをていねいに行い、発芽テスト等で安全を確認してください。
- しょうが及び葉しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発条件では効果が不十分な場合があるので注意してください。
- は種または定植の20~10日前に使用する場合は、地温20℃以上の条件に限って使用してください。
- 芝の目土に処理する場合は、目土に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるため除草剤として、芝生に直接散布する事のないように注意してください。
- 葉たまねぎ(苗床)またはたまねぎは種14日前までに使用する場合は、本剤を均一に散布後、レーキ等で浅く(2~3cm)混和し、ビニール等で被覆してください。7日後に被覆を除去し、さらにその後7日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地によるガス抜きを行ってください。
- たまねぎのべと病は感染力が強く拡がりやすい病害のため、散布剤との体系処理を行い、感染防除に努めてください。
- たまねぎに秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆してください。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行ってください。は種は翌春に行ってください。
- てんざいに秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆してください。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行ってください。は種は翌春に行ってください。
- たばこに使用する場合は、次の点に注意してください。
 - ①秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和してください。混和後鎮圧してガスの蒸散を防ぎ翌春耕起した後、植付してください。
 - ②春期使用する場合は、本剤を散布後、十分混和して、その後そのまま放置し、2週間後に畦立てをし、その2日後にビニール等で被覆してください。さらに2週間後に植付してください。
- ミツバチの巣箱周辺での使用はさけてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

- 使用前にラベルをよく読む。
- ラベル記載以外使用しない。
- 小児の手の届く所には置かない。
- 防除日誌を記載する。



自然に学び 自然を守る 1987(21-7)

クミアイ化学工業株式会社

本社 東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL03-3822-5036
ホームページアドレス <https://www.kumiai-chem.co.jp>